

# 幼児の眼の爲に

## 目次

第一回	(一) 幼児の眼の發育及び生理……………	一五
第二回	(二) 眼の先天性畸型……………	一九
第三回	(三) 幼児の主なる眼疾患とそれに対する注意(其一)……………	三三
第四回	幼児の主なる眼疾患とそれに対する注意(其二)……………	三七
	(四) 幼児の眼の外傷……………	三二
	【外】—挿圖六 表二	

醫學博士 松本保三氏



# 幼児の眼の爲に

醫學博士 松 本 保 三

## 第一回 緒 論

眼は五官の中でも最も大切なものであつて、聾よりも何よりも眼の見えぬ人間は最も不幸である。又容貌から言つても眼は顔の最も主なる地位を占めて居つて、可愛い顔とか、美しい顔とかは、皆この眼が主なる要素となるものである。斯やうな大切な眼であるから幼時からの注意が誠に緊要である。無論目つきは生來のものであつて、如何ともある。斯やうな大切な眼であるから幼時からの注意が誠に緊要である。無論目つきは生來のものであつて、如何とも致し方無いが、折角申し分の無い完全の眼に生れて來たものでも、幼時に一寸した不注意から、或は手當てを怠つた爲め、其の形を壞し、或は光澤を失ひ、一生人前を暗く過ごさねばならぬ人は少くない。斯う云ふ事は皆母親の責任と云つても差し支へないのであつて、一生子供から母親が恨まれると云ふことは、世間に屢々見受ける事實である。

## 一、幼児の眼の發育及び生理

### 生 後 の 眼 の 異 常

健全の子供が生れる場合は、眼も亦何等異常がないのは勿論であるが、分娩が長引くとか、或は鉗子分娩と云つて

器械を用ひて生れた場合には、まゝ眼に異常を呈する事があつて、眼瞼が腫れるとか、結膜即ち「しろめ」の部分が充血したり、出血したり、眼瞼に溢血があつて紫色になつたり、角膜即ち「しろめ」に濁濁を見る事などがある。併し之等は多くは数日乃至数十日の中には痕跡もなく消えるのが普通である。又初生児は生後二三日で黄疸が起る事が多く此の時は「しろめ」が黄色になるのが普通であるが、この事は餘り意に介する必要もない。

#### 幼児の眼の發育並に視力と辨色力

人の眼球は、生後七歳位までが最も速かな發育をなし、其の後は身體の發育に比して稍々緩徐となるものである。初生児の眼球の大きさは、大人のそれに比して、約三分の二の大きさを有するものである。

完全の眼を以て生れた小児が、何時頃から眼が見える様になるかと云ふに、生れたばかりの子供は正確に物の形などは見えず、只漠然とした明暗と色の感じがあるのみである。それであるから初生児が眼の運動をするのは、それは純粹の反射によるもので眼が見えるためではないのである。斯様に明暗の辨識は早くからあるが、確實に見えて來るのは生れてから五六週間の後である。無論子供の發育程度に依り多少の差はあるが、先づ二ヶ月と見て大差ない。三ヶ月を経ても、尙まだ物が見えないのは、何か眼に異常があるのかも知れぬ。子供の視力があるかないかと云ふ事は親として早く知り度いものである。之を検するには、暗い部屋で電燈を凝視すれば稍々確である。母の顔を見て笑ふやうなれば確かである。幼時に視力の悪いものゝ特徴は、一物をちつと見ず、眼球が不規則に運動して、常に上下左右に廻轉し、絶えず何者かを探し求めるやうである。

さて小児が色を見分けるのは、何時頃からかと申すに、或學者は一ヶ月経てば已に色を見て喜ぶと云ふ人もあるが色の區別が完全に出来るやうになるのは、滿二年に達する頃である。

色に見える順序は、赤——緑——紫黒——灰青である。子供の好む色と云ふのは、青と赤で玩具にも之等の色を多く用ひられてある所以である。

色の指名は、大體滿三歳位で出来るものであるが、一般に男兒より女兒の方が發達してゐる。之は持ち物とか、衣服とかの関係で、身の周りに色物を多く着けて、常に眼に觸れる事が多いので、自然に色に對する智識が發達するものであらう。

#### 初生児の眼の屈折

初生児の眼は、殆ど凡て遠視眼である。子供で如何にも近視のやうに思はれるものでも、正しく調べて見ると、方は遠視眼か正視眼である事が多い。

#### 初生児の瞳孔運動

普通の人の瞳は光に會ふと小さくなり、暗い所では大きく開き、眠つてゐる間は小さくなつてゐるものであるが、初生児に於てかう云ふ瞳の運動の初まるのは生後三ヶ月目位で、六七ヶ月目となると、高度の瞳孔の縮小が行はれるやうになる。瞳の光に對する反應が始まつてから後二三ヶ月にして、瞬目即ち「まばたき」が始まる。

### 初生児の涕泣

生れたばかりの子供が泣くのは全く反射的涕泣であつて、精神的に悲しくて泣くのではない。涙の流れるのは鼻粘膜の刺戟によつて流涙を促すものである。精神的の涕泣は健全の子供に於ては虚弱な子供よりも早く起て来る。

### 第二回

## 二、眼の先天性畸形

### 眼瞼

眼瞼缺損症  
險裂閉塞症、之は上下の「まぶた」が互に



第一圖

くついで居て眼が開かないもの。  
内管贅皮  
血管腫(あざ)  
皮様腫



(A) 寫眞

### 涙器

- 涙囊瘻管
- 涙點閉塞症
- 涙點過多症

### 結膜

結膜母斑——白眼の所にほくろがあるもの。  
皮様腫

### 角膜

- 先天角膜翳濁
- 角膜葡萄腫
- 小角膜
- 皮様腫

### 虹彩

虹彩缺乏症——所謂茶目が無くて、瞳ばかりのもの。



第二圖

虹彩缺損症——所謂茶目の部が缺けて居て瞳が異常な形を呈して居る  
 虹彩變位症  
 多瞳孔  
 瞳孔遺殘膜  
 異色眼——一眼が茶目で、一眼が灰色のなどもある

### 鞏膜

青色鞏膜——「しろめ」の所が青色に見える人。

### 水晶體

先天性白內障——之は盲目状態にあるが、手術を加へると、視力を恢復するものが多い。

### 眼球全體の異常

先天性牛眼——之は眼の中に水が溜り、眼球が漸次大となる。角膜が潤濁して來り、長く其のまゝにすると、元に歸る事なく、早く手術をする必要がある



第三圖



第四圖

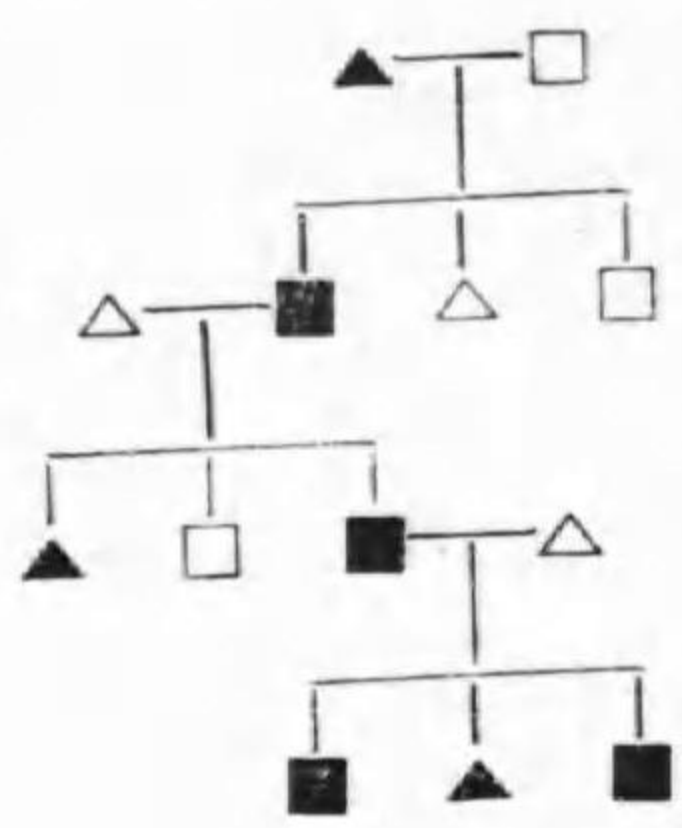
小眼——之は眼球全體が小さくて、小豆大の事があり視力は無論ない。  
 無眼——之は全く眼球がないのである。  
 先天性眼球突出症——之は生れつき眼が飛び出して居る。

### 遺傳或は血族結婚に依る先天異常

- 高度の遠視
- 斜視
- 眼球盪盪症
- 高度の近眼
- 色素性網膜炎
- 家族性視神經炎 或は 視神經萎縮
- 先天性夜盲症
- 色盲
- 先天性弱視

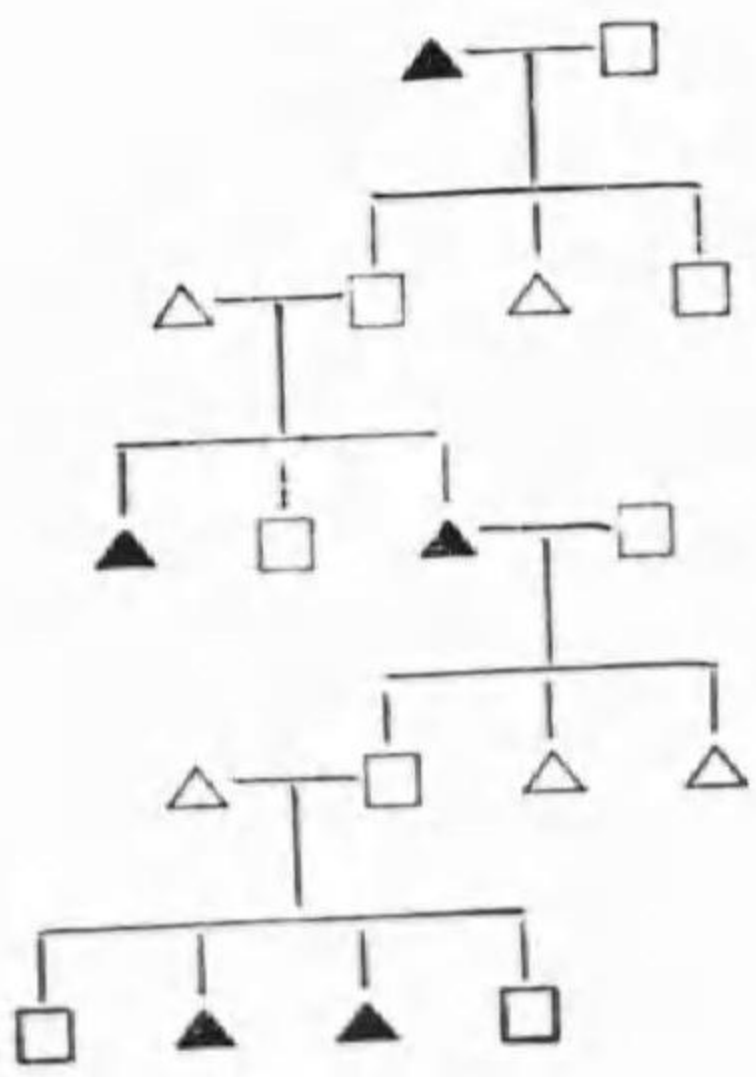
第一表

眼球擾邊症の遺傳例



第二表

色育の遺傳例



□ハ女  
△ハ男  
■ハ發病者

第三回

三、幼兒の主なる眼疾患とそれに対する注意(其二)

眼瞼腫脹と着色

眼瞼は僅かの原因で、直ぐに腫れたり、色がついたりする。例へば結膜炎の時や「ものもらい」の出た時やなどは

さうである。注意すべきは、急性の腎臓炎の時に體に腫れが来る前に、眼瞼が第一に腫れて来る事である。

眼瞼の副痘

種痘してその膿が「まぶた」についた時に「かさぶた」が出来るのである。故に注意して膿を手につけさせぬ様にせねばならぬ。

眼瞼の膿瘍

眼瞼に膿をもつて非常に腫れる事がある。之は早く手當てをせぬと、眼瞼に大きな傷を残し醜形を呈する様になる。

眼瞼濕疹

頭や顔に濕疹があると同時に、必ず眼の周りにも出来る。眼の周りのは甚だ頑固で、中々快らないから、頭や顔に濕疹が出来たら、廣がらぬ中に早く手當せぬといけない。

眼瞼縁炎

眼のふち即ち睫毛の生えぎわの所がたゞれたり、かさぶたがついたりするものである。久しくそのままに放置すると睫毛が抜けて無くなつたり、不揃ひになつたりして、汚ないみにくい眼となる。之は手當を受けると一時はよくなるが、又直ぐに再發しやすいから、十分直つて了ふまで治療を受けさせねばならぬ。

## 「ものもらひ」(麥粒腫)

普通「ものもらひ」と云つて輕視するが、中には随分炎症の甚だしい痛みの激しいのがある。之は眼を温めて膿が出る様になれば、常によく拭ひとらぬと、繰り返し出来る事がある。

## 霰粒腫

之は前のと似ては居るが、堅いぐりぐりがあつて、之の方は手術をせぬと快らぬ。生れたばかりの子供でも數個並んで出来る事がある。

## 内 翻 症

脂肪の多い様な子供に往々眼瞼が内翻して、睫毛が眼球に障る事がある。多くは大きくなると自然に直るが、その程度の強いものは、手術の必要がある。幼兒の眼が別に他の異常なくて、涙が溜るのは多くは之である。

## 涙 囊 炎

眼と鼻との間に涙囊がある。之が化膿したものが涙囊炎である。急性のものは「鼻がしら」からまぶたにかけて腫れ閉ぢ、甚しい發熱をする事がある。この急性のものゝ初期には、氷を使つて冷し、もしも尙化膿したなら手術をして膿を出さねばならぬ。

## 結 膜 出 血

百日咳などで、咳の強い時に「しろめ」が眞赤に出血する事があつて一寸見て非常に驚く事があるが、之は左程心配するには及ばぬ。温めれば自然に吸収されてあとかたなく直るものである。生れて直後に「くろめ」の周圍に屢々小さな出血を見る事がある。之もやはり温めると直ちに消ゆるものである。

## 結 膜 充 血

之は軽い結膜炎であつて、只少し結膜即ち「しろめ」が赤くなり、「めや」には餘り出ない。塵埃、風、煙などの刺激で起る。

## 急 性 結 膜 炎

多くは微菌の傳染に依るものであつて、眼が強く充血し、「めや」が澤山出る。非常に傳染しやすいものであるから、手拭や洗面器は絶対に區別する必要がある。普通に云ふ「はやりめ」は之である。成るべく早く醫治を受けて眼を硼酸水で度々冷し眼を清潔に保つ事は勿論であるが、手を常に綺麗にして置く事が大事である。

## 慢 性 結 膜 炎

急性の結膜炎が不治に長く續いた時、又は塵や風に長くあたつて充血が繰り返したあとで起るものである。

## 「めぼし」(水泡性結膜炎及角膜炎)

腺病性の虚弱な子供に出来易い。「しろめ」にでも「くろめ」にでも、ポツリとした小さな「ぼし」が出来るが、最も多いのは「くろめ」と「しろめ」との堺の所に出来る。時としては数個一時に出来る。「しろめ」の「めぼし」は、比較的快り易いが「しろめ」の方の「ぼし」は割合に重症で、まぶしがつたり、涙を流す事が多い。時には数ヶ月、数年も繰り返して悩む事がある。普通温めるがよい。重症のものは眼の手當ての外に、全身的の療法が必要である。栄養をよくし、なるべく戸外で遊ばせ、良い空気を吸はせ、日光浴をさせて、全身の栄養状態を良くする事に心掛けねばならぬ。場合により鐵劑や肝油などが有効の事がある。近時使はれる太陽燈による紫外線も著効のある事が少くない。

## 結膜チフラー

「まぶた」の裏側に、チフテリーの膜が出来る。之は「のど」のチフテリーと同じ微菌に依るものであるから、早く直さぬと鼻やのどに廣がる事がある。又眞のチフテリーでは無いが、義膜性結膜炎と云つて、同様の白い厚い膜がはる事がある。共に傳染性のものであるから注意を要す。

## 初生兒漏膿眼

母親に淋毒があるとか、子供の生れる時に、汚水と共に淋菌が子供の眼に入つて起るものである。生後二日目位か

ら濃い膿様の「めやに」が出る。之は悪性のものであつて、往々に「くろめ」を侵して甚しきは失明するに至る。幼兒の失明原因の主なるものである。生後二四日の中に眼から膿様の「やに」が出たら直ぐに醫者の診察を受けなければならぬ。かく恐るべき危険な病氣であるから、其の豫防法が最も必要である。今では法律で産婆に豫防法を行はせる事となつてゐる。其の方法は子供が生れると、全身を綺麗にしてから、清潔な布片を清水に浸し、眼瞼を拭ひ、兩眼瞼を開き、硝子棒で二プロセントの硝酸銀水を結膜にたらすのである。之の方法が行はれ出してから、従來子供に初生兒膿漏眼が一〇、八パーセントあつたものが、僅かに〇、二——〇、二パーセントに減じて來たのである。一眼侵され他の一眼が尙健全ならば、片方へ傳染させぬ様十分注意して膿を決して他眼へ入れぬ様せねばならぬ。

## 第四回

## 幼兒の主なる眼疾患とそれに対する注意 (其二)

幼兒も亦トラホームにかゝる事がある。家族にトラホームの患者がある時は尙更である。一般に幼兒のトラホームは重症が少いから、氣附かぬ事が多い。幼時に氣附かぬ位でも、後年になつてから重症となり快り難いから幼時から注意して置かねばならぬ。家庭で最も注意すべきは雇人、殊に子守りを雇ひ入れる時、トラホームの有無の検査を受けさせる事である。トラホームは慢性で経過の長いものであるから、若しトラホームに罹つたら根氣よく治療をせねばならぬ。幼時にトラホームが全治してゐないと、入學にも不利益の事は申すまでもない。若し家庭に「トラホーム」



の患者が一人でもあつたら、傳染性の結膜炎と同様に絶対に手拭や洗面器を分けて傳染を防がなければならぬ。

### 濾胞性結膜炎

生後間もなく眼の裏に澤山の顆粒(ブツブツ)が出来る事がある。よく母親が子供の眼の中に粒さへあれば直ぐに「トラホーム」として大騒ぎする人があるが、之はトラホームとは全く異り、體質に依り出来るもので、全く障碍のないもので、心配は無用である。然し往々結膜炎を起す事あり、又「トラホーム」等に罹り易いものである。單純の濾胞だけなら手當の必要もない。

### 結膜及角膜乾燥症

一種の栄養不良即ち「ビタミン」Aの缺乏で起る病氣であつて、眼球が乾燥する病氣である。眼球に「みづけ」がなくなり、光澤が失はれる。遂には角膜軟化症と云つて「くろめ」が崩れて失明状態となり、初生児膿漏眼と共に失明の主なる原因となるものである。乳兒の消化不良とか、麻疹の後の衰弱とか、脾肝とかによく見られる恐ろしい眼病で、二三日氣の附かぬ間に往々手後れとなり、一生を暗黒にする事がまゝ見受けられる。人工栄養で消化不良を起した子供などは常に之の病氣の注意が必要である。一般にひどく衰弱した子供で眼を塞いでみて、開いて見ると眼のたまの「つや」の悪い場合は小兒科醫にかゝると同時に、眼科に受診する事がよい。之の病氣には肝油が特效薬であるから衰弱した子供には豫め其の豫防として、肝油を少量づゝ與へる事も一方法であらうと思ふ。肝油を飲ませるには牛乳に肝油の少量を加へて掻き廻して飲ませるのが、實際上有效の様に思はれる。

### 角膜實質炎

先天梅毒の子供に來る病氣であつて、之に罹ると「くろめ」が段々と白くなり、一、二ヶ月は全く失明状態となるのが普通である。之が多くは再び徐々に透明となり、元の通りに恢復する事が多い。親が梅毒に罹り十分に治療せぬ時に、その兒にまで梅毒を傳へて、無辜の子供にまで不幸を見せるとは誠に可憐な事で、人の親たる者はよく注意せねばならぬ。之の病氣も經過の長いものであるから、そのつもりで治療を受けねばならぬ。

### 虹彩炎

前者と同じく多くは遺傳梅毒によるもので、腫が全く消失する事がある。往々生れるよりも前に虹彩炎に罹り、生れた時、己に盲目の状態にある事がある。適當の治療を加へる事により、多くは快るものである。

### 眼底の疾患 (その二)

外觀は異常のない眼でも、眼底に出血とか、視神経炎だとか、網膜炎だとかがあつて、視力の悪い又は全く無い子供が生れながらに見られる事がある。又生後病氣の出るものも勿論ある。之れらは視力の悪い事に氣が付き、醫者の診察を受けて初めて知るより他は道がない。之れも其の病氣の原因に依り直る事もあり、快らぬ事もある。

### 視神経の疾患

視神経炎は腦膜炎、副鼻腔の疾患、種々の急性傳染病の時などに起る。それが治癒せぬと、遂には視神経が萎縮し

全く視力を失ふもので、之が眞の意味の「そこひ」である。又鬱血乳頭と云つて脳の腫物のある時に、視神経がひどく腫れる事がある。脳に腫物のある事が眼の診断で確かなるわけである。

### 網膜膠腫

一歳より五歳位までの子供に來る所の悪性の腫瘍であつて、眼の中に出て段々に發育して、遂には全身に廣がり子供の生命を奪ふ所の恐ろしい病氣である。この病氣の初めは子供の眼が暗い所で猫の眼の様に光る。視力は最初は相當にあるが進行すると全く見えなくなる。この腫瘍が大きくなると、遂には「めだま」をつき破つて眼の外へ腫瘍がとび出して來る。この病氣は早



(B) 寫眞

く確實の診断をして、一眼を犠牲にして眼球を取り除かねばならぬ。然らざれば若し手後れとなると、たとへ眼球を取り除いても時己に遅く、腫瘍の「たね」は全身に蒔き散されて、如何ともなす術がない。手術が早ければ早い程生命の危険が少いわけである。寫眞Bは一度手術した腫瘍が再發したのを示したものである。

## 四、幼兒の眼の外傷

### 異物

子供はすぐに眼に物を入れるものである。例へば灰を入れたり、風の吹く戸外で塵が入つたり、汽車で煤が入るとか等。異物は肉眼に見えぬ様な小さなものでも眼がゴロゴロとして苦痛なものである。かゝる時は眼を二本の指で靜かに開いて見て、若し何か異物が見つかれば脱脂綿なり、清潔なハンケチなどで軽く之を拭ふやうにして取り除く。異物が取れさへすれば、即時にその症状は直るものである。若し異物が「くろめ」にある場合は、素人は直接にそれを除かうとするのは無理である。清潔な水で洗つてとれるか否やを試み、決して強くこすつたりしてはならぬ。若しとれない時は速く眼科醫を訪れて取つて貰はねばならぬ。よく世間には眼を唾でなめる人があるが、之は病毒の傳染の危険があるから行つてはならぬ。

### 眼の火傷及び腐蝕

子供が「おろり」に落ちて、火の中に顔を入れたとか、煮湯を眼に浴びるとかする事は往々見られる事實である。之れ等はかなりあとまで醜形を残す事が多いから注意せねばならぬ。硫酸とか其他の藥品で眼を腐蝕する事が時々あるから、其時は直ちに水で十分洗ひ、其の後に醫者に連れて行く。

眼球の創傷

鉄や針で眼を刺すとか、轉びし柏子に眼に物を突き刺すとか、玩具の針金が外れて眼に飛んで来るとか、かゝる種の子供の眼の創傷は案外多いものである。之が單に表面を傷けただけなら大した心配はないが、深くつき刺さると、其の爲めに失明する事がある。又運悪く傷口より微菌が入り、眼球が化膿する事がある。何れにしても「けが」の時は、醫者に速く行く事が安全である。

斜視

子供の時代の「やぶにらみ」は軽い場合は自然に直る事が多い。尤も種々の脳の病氣等で起つた時は、其の病氣の治療の必要なは勿論である。眞の「やぶにらみ」は手術で直さねばならぬ。手術は十歳前後まで待て行つた方が、其の成績がよいのである。尤も程度によつては學齡前に行つて差支へはない。

—【完】—

家庭講座「我子の爲に」(春の巻)

昭和四年二月廿三日印刷  
昭和四年二月廿五日發行

【金六十錢】

編輯者兼 社団法人 日本放送協會關東支部  
發行者 右代表者 中山龍次

印刷所 東京市麴町區内幸町一ノ五  
ジャパン・タイムス社印刷部

印刷者 東京市麴町區内幸町一ノ五  
芝 誠一郎

發賣元

東京市京橋區元數寄屋町三ノ七  
株式會社 北 隆 館  
振替東京七五〇番

**家庭講座「我子の爲に」(花の巻)發行**

本テキストの講演放送は多分四月の末まで續くと思ひますから其後を繼ぐ育兒上の諸問題は幼兒の營養、乳齒の話、皮膚の話、洋服の仕立方一ツ身、嬰兒用被服の仕立方その他重要な精神教育等に關し十餘類を選び何れも大家の御執筆を煩はしテキストに輯録いたし、我子の爲に「花の巻」として發行致します。相變らずテキストの御利用を希望致します。

**春 家庭大學講座テキスト**

生理學……………全一冊 二月十九日より(毎週水曜)六月十八日まで(日開講) 定價 五十錢 (送料四錢)  
 電氣工學……………全一冊 二月廿五日より(毎週月土)六月十五日まで(曜日開講) 定價 三十五錢 (送料四錢)  
 歴史講話……………全一冊 六月十五日まで(曜日開講) 定價 三十五錢 (送料四錢)

開講毎に各方面より多大の好評を博する家庭大學講座は春季として左記日時(午後一時四十分より三十分開講)に依り生理學、國史、電氣工學の三課を開講して居ります。これに使用するテキストは生理學だけ印刷の都合上別冊とし國史、電氣の二課を全一冊として發行致しました。生理學テキストの内容は講師たる加藤博士の執筆で日常必要とする生理學とは何ぞやより説き起し人體構造其他を二百餘の鮮明なる圖版にて極く平易に興味深く解説されてありま

す國史は中村博士、電氣は山本博士の各執筆で中學以上を基礎として理論より實際へと新知識の理解に勉め是又多數の挿畫入りにて解説されてあります。以上の如く一般の方々のためこの上ない活きた責任ある講座であると確心致しますから、是非兩テキストをお求めの上御聴講あらん事を希望致します。

**春季英語講座開講**

初等科、中等科、各テキスト發行  
 春季(第一學期)英語講座は(四月下旬開講)今回よりJOAKの中繼放送にて全國へ定評あるラヂオ英語講座を各地の學生諸君に開講致します。宜敷く御聴講願ひます。

**コドモのテキスト**

標準的の子供讀物として又立派な繪本として、全國各小學校及各家庭より大好評を博しつゝある「子供のテキスト」は益々面白く而して爲になるをモットーとして三月の放送に使用する分を二月二十一日に各地書店へ發賣しましたから、未だ御手にしない御子さんは至急御求めの上三月の子供の時間を面白く解りよく御聴き下さい。(定價一冊二十錢)送料二錢  
 毎月二十日 翌月放送使用分を發行

終



家庭講座 我子の爲めに